

流行ニュース：

<ペスト、ザンビア>

未確認情報であるが、東部地方で 3 例の死亡を含む 23 例のペスト入院患者が発生した。最新の報告例は 3 月 15 日であった。

<黄熱、ブラジル (2001 年更新) >

ブラジル保健省は 3 月 13 日現在黄熱疑い患者が 48 例発生していると報告している。最も患者の多い Minas Gerais 州では 9 例の死亡を含む 20 例が確認され、現在 13 例が検査中である。

<髄膜炎疾患、アフリカ髄膜炎地帯 (2001 年更新) >

* ベニン：3 月 13 日現在、死亡例 172 を含む 3,643 例が報告された。(1 月 1 日~3 月 3 日)

* ブルキナ・ファソ：3 月 25 日現在死亡例 719 を含む 4,350 例が報告された。(1 月 1 日~3 月 18 日)

WHO は流行性髄膜炎撲滅国際組織 (ICG) を通してワクチンの提供を受けている。

* カメルーン：3 月 8 日現在、死亡例 28 を含む 415 例が報告されている。(1 月 1 日~2 月 25 日)

* チャド：3 月 21 日現在、死亡例 337 を含む 3,064 例の報告。(2000 年 12 月 25 日~2001 年 3 月 18 日)

* エチオピア：3 月 16 日現在、死亡例 148 を含む 2,324 例が報告された。エチオピア保健省は、感染ハイリスク (30 歳以下) 人口は 1000 万人以上に及んでいることを確認している。

* ニジェール：3 月 23 日現在、1,795 例の患者と 137 死亡例が発生。(1 月 2 日~2 月 28 日)

今週の話題：

<野生 2 型ポリオウイルスの感染 地球からの根絶>

1988 年、世界保健会議は 2000 年までに地球からポリオを根絶することを決議し、約 3 年前には WHO はアメリカおよび西太平洋地域におけるポリオの根絶を確認した。野生 1 型と 3 型ポリオウイルスの感染患者数は減少している (表 1)。ポリオ根絶の主要な 4 戦略は急性弛緩性麻痺 (AFP) サーベイランス、ポリオ経口ワクチン (OPV) の継続的な接種、全国予防接種日 (NIDs) の設定、ウイルス保菌者の根絶を目指した免疫掃討活動の実施である。

表 1: タイプ別ポリオ確認症例数、1999 年および 2000 年

WHO 地域	1999				2000			
	症例数	1 型	2 型	3 型	症例数	1 型	2 型	3 型
アフリカ	2 861 (246)	167	0	79	1 763 (144)	139	0	5
アメリカ	0	0	0	0	0	0	0	0
東地中海	914(479) (混合 4)	392	0	83	453(259) (混合 6)	155	0	98
ヨーロッパ	0	0	0	0	0	0	0	0
東南アジア	3 365(1 185) (1 型と 3 型混合 12)	430	11	732	608 (271)	140	0	130
西太平洋	1 (1) ^a	1	0	0	0	0	0	0
計	7 141 (1911)	1 664	11	894	2 824 (674)	434	0	233

^a 輸入感染症例

近年野生 2 型ポリオウイルスの分離を報告した国は 1990 年のエジプト、1997 年のアフガニスタンとパキスタン、1998 年のナイジェリア、1999 のインドであった。2 型ウイルスの分離株のいくつかはインド北部 3 州からのものであり、この 2 型ウイルス分離株は遺伝子学的には感染鎖のごく一部で異なっていたのみで、大部分は一致していた。

野生型ポリオウイルスの流行が続いている全地域において、AFP サーベイランスの質は非常に向上している。しかし南西アジア地域および東部地中海地域に比べて、他の地域よりもポリオ根絶計画が遅れたアフリカ地域においては、非ポリオ性 AFP 患者の発生率は 0.8 (1999 年) から 1.3 (2000 年) になお

増加しており、2000年においても糞便検査は53%と低率であった。

AFPサーベイランスは7特殊研究所、15委託研究所と126国立研究所から構成された148WHO公認研究所の世界中のネットワークにより支援されている。そのネットワークは1999年には約48,370の糞便検体を、2000年には約50,000の糞便検体を調査分析した。この期間に、野生1型ポリオウイルスが2,098検体(1999年に1664、2000年に434検体)、2型11検体(すべて1999年にインドの検体)、3型が1,127検体(1999年に894、2000年に233検体)、野生1型および3型ウイルスが確認された混合検体が23検体(1999年に16、2000年に7検体)に認められた。

*編集ノート：野生2型ポリオウイルスの根絶は全世界のポリオ根絶の歴史的な一里塚であることを示している。検体調査、分析の結果、1999年10月以来分離された2型ポリオウイルスはすべてワクチン由来のウイルスであり、インドから最近分離されたポリオウイルスのタイプはポリオ感染の最終段階にあることを示している。

ワクチン開発以前には2型ポリオウイルス流行の地理的な分布は広範囲に及んでいたが、熱帯諸国で免疫率が増加したため感染は急速に減少した。OPVによる2型ポリオウイルスの免疫性とワクチン接種者との接触者からのワクチン由来ウイルス感染はポリオ根絶に重要であると考えられる。

野生1型および3型ポリオウイルスは2型よりも根絶は困難であるが、アメリカ、ヨーロッパ、西太平洋における経験は、ポリオ根絶戦略が一度完成するとすべてのポリオウイルスに対して有効であることを示している。AFPサーベイランスの質の向上と追加免疫を行う戦略は、ポリオを根絶した諸国からの継続的な支援と共に、2005年までに地球上からポリオ根絶を保証するであろう。

<旋毛虫症の輸入ヒト感染例、イタリア>

旋毛虫症は全世界に存在する動物寄生虫疾患である。この流行は豚肉、馬肉、牛肉、猟獣肉の消費と密接な関連がある。旋毛虫の幼虫が感染した生肉を摂食すると、5、6日以内に幼虫は宿主の腸内で成虫になる。その後、雌が幼虫を生み、その幼虫の一部がリンパ管と血管に侵入し、筋肉に到達する。2-3週間で、幼虫は感染性を獲得して、宿主細胞はnurse cellになり感染性のある幼虫を年余にわたって宿す。過去10年間、国立の獣医サービスと州立農場の衰退、中東部ヨーロッパにおける経済的な諸問題や戦争は、養豚業者の旋毛虫感染の急激な増加をもたらし、その流行はいくつかの村落では50%に達し数百人の感染者を出すに至っている。

2000年1月6日に、ローマ(イタリア)在住の東欧移民7人が豚肉性のスモークソーセージを摂取、移民の一人が働くイタリア家庭の二人も約10gのソーセージを食した。摂取後2日目に、移民6人が1日中続く下痢と嘔吐にみまわれた。2月1日(感染肉摂取後3週間目)から始まり、19-55歳(平均33歳、男性4人)の7人の移住者は感染症のためにローマのL. Spallanzani病院に入院した。入院時の主要症状は発熱(全例38-39)、筋肉痛(全例)、腹痛(全例)、下痢(7人中6人)、眼瞼浮腫(7人中6人)であった。ローマの国際旋毛虫委託研究所(Istituto Superiore di Sanita)で行われた旋毛虫感染のELISA法による血清学的診断では、最も激しい症状であった4人の患者で抗旋毛虫特異抗体IgGは1:800以上を示した。好中球増多症は全例に認められたが、筋肉由来の酵素値は正常または軽度の上昇に留まっていた。全ての患者はアルベンダゾールと抗炎症療法による治療を受け、急速な症状の改善をみた。この人旋毛虫症流行は1948年109名の発症に続き、ローマでは2回目である。

流行ニュースの続報：<インフルエンザ>

ノルウェイ(2001年3月17日)¹：3月の2週目に、A型及びB型インフルエンザウイルスが西南地方で流行した。北部では流行にはならなかったが、西部では散発的な流行が続いた。ルーマニア(2001年3月24日)²：A型とB型インフルエンザウイルスの流行が報告されたが、先週と比較すると10地域から2地域にまで減少した。ロシア連邦(2001年3月11日)：インフルエンザの罹患率は、3月第2週には全ての地域において減少した。週毎のインフルエンザの発生率レベルが感染の基準値以下で、全人口の0.7%であった。参照：¹No.11,2001,p.84 ²No.7,2001,p.56

出版紹介：<食品由来の疾患>

WHOは「食品由来の疾患：健康教育のためのフォーカス」(‘Foodborne disease: a focus for health education’)を刊行した。これは、食品取り扱い業者と消費者の健康教育ガイドである。最近確認された病原微生物による感染実例や発生状況など食物と病気との関係性を示し、疾患の予防と健康について論説した書物である。食物の安全性が公衆衛生プログラム上あまり重要視されないことに対し、この新書は食物が汚染された時に生じる損害のコストや、汚染防止によってもたらされる利益を理解するために重要である。詳細はWER参照。

IHRに基づく感染地域リスト基準(詳細はWER参照)

(阿部田鶴、多淵良樹、宇佐美眞)